（ごく少人数の演劇部のためのコンクール脚本）

未成年の主張・えみりの場合

谷川　葉

この脚本は２０１０年代の半ばに、部員が一人だけになってしまった北海道立苫小牧総合経済高校演劇部のために書いた一人芝居を、（そして結局ボツになって上演されなかったものを……笑）書きなおしたものです。なので設定やセリフがあなたの部活の現状に合わなければ自由に変えてください。そしてまた、この芝居は主人公が言いたいことを言う設定ですので、セリフを一字一句正確に覚えるというよりは稽古する中で、あなた自身の言葉でセリフを作り直してほしいと思います。住んでいる地方に方言なんかがあれば、それを活用するアイディアも歓迎です。主人公が思っていることを役者が自分の言葉で主張する演技のほうがより面白い芝居になりそうでしょ？

……では超長ゼリの一人芝居、健闘を祈ります。

谷川　葉

と　き　現代・秋・ひるま

ところ　劇場舞台～学校の屋上

人　物　古田えみり……十七歳・高校二年生・演劇部員　（以上一名のみ）

唐突な本ベルのあと、一拍置いて客電が明るいまま緞帳が上がる。閉じた中割幕をバックに化粧なしの平台を立てたり置いたりして、校舎の屋上とお立ち台が想像できる簡単なセットが組んである。作業灯をイメージした明るすぎない生明かり。無人。無音。

あれ？どうした？……意図的に間をとると客席にはそんなムードが流れるだろう。そこに上手から大きなスケッチブックと芝居の台本を抱えた古田えみりが登場する。セットの前中央、つまり舞台設定で言うと屋上フェンスより外の空中部分に立って前説が始まる。

しかし、前説であると言うのは設定であり、あくまでこれは芝居のセリフである。本番はすでにならした本ベルとともに始まっているのだ。

……それから、前説が始まって少しすると客電をゆっくりハーフに落とすこと。タイミングは照明担当（演出）に任せる。

古田　（登場しながら元気よく）どーもー！○○○（実際の学校名）高校、演劇部二年の古田えみりでーす！今日はうちの芝居を観ていただいてありがとうございます！……えーと、ご存知のように、○○○高校演劇部は今年一年生が入ってこなくて、春からずっと私ひとりっきりの部活になっています。でも、せっかくだからやっぱりコンクールには出たいなと思いまして、ネットとか図書館とかで一人用の台本探していたんですけど、これが仲々気に入ったの見つからないし、どうしよう……って夏になる前から悩んでいました。

でー、今年のお盆におばあちゃんちに行った時なんですけど、なんか部活の話になっちゃったんですよね。そしたら伯父さんが、……って、ああ、この伯父さんってお母さんのお兄

さんなんですけど、なぁんかへんな人で、大体、「脚本書くのが趣味」って気持ち悪くないですかぁ？いや、全然そういうタイプの人じゃないんですよ？ただの水道屋さんなんですから……。どっちかっていうと、ガテン系だし……。なんか昔、自分が高校生だったときに演劇部に台本書いてボツになったって自慢そうに言うんだけど、それって自慢にならないですよね、普通……。

とにかくですね、この伯父さんがですね、俺が書いてやるって言い出したんですよ、コンクールの台本。私、「えー？？やだよー！」って断ったんですよね、そのときは。だって伯父さんのことだからぜーったいダサイやつに決まってるって思ったし……。

……ってまあ、そんなことはいいや。なんせ、紆余曲折あって今年のコンクール、結局この伯父さんの台本で出ることになりました。そ、プログラムに載っている作者名の長谷川葉介って私の伯父さんです。

それでですね、前説やれって言うんですよ、伯父さんが。「前説」ってほら、テレビの収録とかするまえにお客さんにやるやつあるじゃないですか。あれをね、小劇場ではお芝居を上

演するときにもやるんですって。でも私、テレビとかではなんとなく分かっているけど実際には見たことないし、そんなの無理だよ！って言ったんですよね、伯父さんに。だけど伯父さんが「この芝居は前説がないと成り立たないわけがあるからどうしてもやれ」って聞かないんですよ。だけど高文連の演劇コンクールで前説やってる学校なんて見たことも聞いたこともないでしょ？だめなんじゃないかな……って言ったら、「高文連のコンクールに一人で出るんだからこのくらいの『禁じ手』ありだろ」って。はぁ、「禁じ手」ときましたか……。私としては納得しきれてないところはあるんですけど、でも考えてみればカゲアナも先生にやってもらってるし、照明も音響も cue シート渡して会館の方にお願いしているわけですよね？考えてみればもうすでにうちの芝居って禁じ手だらけなんですよ。それならもう一つくらい増えたっていいかな……みたいなところもあって、結局、こうして前説やってます。なんか、後先になりましたけど、ルール違反いっぱいやってることを一度しっかりあやまらせていただきますね。ごめんなさい（丁寧に一礼）。

……で、ですね、前説の中身なんですけど、今日は客席のみなさんにお手伝いのお願いが

あるんです。これからやる芝居は結構前にテレビでやってた、解散したＶ６の「学校へ行こう」って番組の中の「未成年の主張」っていうコーナーがベースになっているんですけど、このコーナーって憶えてる人います？……まあどっちにしても私たちの世代が見たのは特番か再放送のはずなんですけど、私も言われてみればそんなのあったような気がするな……くらいだったんで、ユーチューブで動画探して何本も見ましたよ、伯父さんに言われたんで。見てみれば、あー、確かにこんなのあったなーって懐かしかったし、それに今見てもほんと面白いんですよねー。皆さんも暇な時検索してみてください、お勧め動画ですから。

あー、というわけで、みなさんの中にもきっと急には思い出せない人がいると思うので、説明します。

番組ではＶ６のメンバー二人が毎回ちがう学校に行くんですよ。学校の屋上ですね。そこのお立ち台に立った一人の生徒が下の校庭に集まっているたくさんの生徒たちに向かって演説するわけです。それをＶ６が後ろから見てて、からかったり感心したり感動したりする……っていうような、まあ、ざっくりいうとそんなコーナーなんですよね。

うーん、例えばですね……

「三年ー誰々ー！僕はーみんなにー言いたいことがあるー！」

そしたら校庭のみんなが「なーーにーーー？？」って答えるんですね、一斉に。これがなかなかいいんですよー。それとか、途中で泣いちゃってつまったりする子がいると校庭から「がんばれーー！」って声かかったり、なんかすっごい一体感なんですよね。でー、すみませんけど、カンペ出しますんで、この、校庭にいるみんなの声というのをを皆さんにお願いしたいんです……。はい、完全に完全に禁じ手です。ごめんなさい……。

はい！じゃぁ練習行きまーす！よろしくお願いしまーす！！

（ちょっと役を作って）

二年ー！古田ぁ！えみりぃ！

私はーっ！みんなにーっ、言いたいことがあるーーっ！

持っていたスケッチブックの「なーにー？」のページを客席に向ける。客席からまばらに

「なーにー」が来るはず。

古田　はい、ありがとうございます。……えー、でももう少し大きな声で言ってもらっていいですか？みなさんは校庭にいて、相手は校舎の屋上にいるって設定なんで……。注文多くてすみません。

じゃ！もう一回行きまーす！

（役を作って）

私はーっ！言いたいことがあるーーっ！

ふたたびカンペ「なーにー」を向ける。今度はかなりノリのいい反応があるはずだが、まだ小さかったら「すみません、もうちょっとだけ大きな声で……もう一回だけいいですか？」ってやってもいいし、反対にノリがよすぎたら「ごめんなさい、そんなにはいらないです」と軽く客席をいじってもいい。アドリブでがんばろう。（いくつかのパターンを想

定して練習しておくこと）

で、理想的な反応になったら、

古田　すばらしい！ありがとうございます！この調子でお願いしますね。じゃ、もうひとつ！

えーと……、えーとですね……

と、持っていた芝居の台本をめくりながら視線を上げずにスケッチブック「がんばれー！」

のページを見せる。ここは客席から反応があるはずだ。

古田　えーと、これはですねー、今回の一人芝居って、言わばちょーちょーちょーちょーーーー長ゼリなんですよ。なのでどうしても何回かはつまっちゃうんですよね……はい。ですからそんな時は台本カンニングさせてください。当然芝居は止まります。そこでみなさんに「がんばれーー」と言って助けてもらいたいわけなんです……。ごめんなさいね、ほんとうに……。

（なにげに役を作って台本を見るふり）

えーと……、えーと……

カンペ「がんばれーー」を出す。客席の、多分よすぎる位の反応。

古田　あ、そんなに声そろえなくていいですよ。照れるじゃないですかー。少しバラついてる方が気持ちがこもってる感じするでしょ？（気持ちを込めた小さな声で）「がんばれ……」みたいなね……。（ここも前と同じで少々客席に合わせたアドリブ入れるとグッド。ところでこの「がんばれ」カンペは本当にセリフにつまった時にも使ってよい。そのため、役者はカンペ用のスケッチブックとカンニング用の台本を持つか、あるいは近くに置いて演技することになる）

えーと、それから、これは少しむずかしいんですけど……（と、「ガヤガヤ」のページを見せる）これを出したときはへーってつぶやいたり、くすくす笑ったり、隣の人とおいおい……みたいな私語を交わしたりしてほしいんですよ。どーなってんの？って思い入れでこーや

って……首を動かしてもらったりしてもＯＫです。そんなわけで、これに関してはその時の状況によるからみなさんのアドリブに頼るってことで、あらためて練習はしません。

以上お願いばかりですが、どうぞよろしくお願いします。（礼）

さて、それでは、プログラム〇〇番・〇〇〇高校「未成年の主張・えみりの場合」を開演いたします。上演時間は約三十五分（ここ以降の実寸に変更する）、最後までごゆっくりお楽しみください。

（舞台上袖に向かって）あのー、すいませーん！……あの、申し訳ないんですけど、もう一回ブザーだけ鳴らしてもらいたいんです。……ええ、はい、ありがとうございます！あ、緞帳はこのままでいいです。すみません、ほんとうに……。

じゃ、本ベルお願いします！

本ベル（８秒）がなる。なり始めると同時にハーフだった客電アウト。舞台上本番明り

（割幕に青、舞台広めのエリア明りなど晴れた昼間の学校屋上）にチェンジ。

古田は役を作りながらゆっくりお立ち台へ移動する。

古田　（グッ！と胸を張って）二年三組ーーーー！古田ぁー、えみりぃーーーー！わたしはぁー！今日ー！みんなにぃー！聞いてもらいたいことがありまぁーーす！！！（カンペ「なーにー？」）

えみりのセリフは進むにつれて段々普通の話し方になっていくこと。どのへんからどう変えていくかは、役者（演出）に任せる。

古田　わたしはー、小学生のころからー、絵を描くのが好きでしたー。ほかの科目じゃー、あんまりほめられたことないけどー、図工の成績だけは良かったしー、家族もほめてくれましたー。人間って何か一個でもー、他人から認めてもらえるものがあるとー、それが拠り所になるっていうか、すっごい心強いものなんですよねー。ちょっと大げさになっちゃったけど、これはほんと、そう思いまーす。わたしの友達なら知ってると思うけど、うちの家庭ってちょっ

とごちゃごちゃあったんですよー。でもそんな時もー、絵を描くことで耐えられたっていうかー、絵を見た人から「えみりってうまいよねー」なんて言ってもらえると、辛いことがあっても耐える勇気をもらったなーって、思いまーす。みんなもそうだよねー。フツーの人が、フツーに生きていて、フツーに遭遇する辛いことって、フツーなんだろうけど、でもけっこう手ごわいよね。そこに立ち向かうための武器って言うか道具って言うか、そんなものって人それぞれだと思うけど、それが私の場合絵だったんですよね。まあそんなわけでー、単純だけど、最近は絵を描くことを将来の仕事にしたいって思ってまーす。（カンペ「がんばれー」）

ところが、なんですよー、最近ちょっと、分からなくなってきちゃったことがありまーす！

（カンペ「なーにー？」）

私ー、絵を描くことが好きって言っても、絵について深く考えた事ってなかったんですよね。絵を描くってことなら、絵画も漫画もおんなじで、どっちも好きだし、美術の時間にしても、写生やデッサンも面白いけど、ゆるきゃらのデザインだって面白かったし、あ、私の描いたゆるキャラは先生やまわりの友達にも、評判良かったんですよ？だから将来、仕事と

して絵を描くと言えば、何となくアニメの作画スタジオのスタッフみたいなイメージでいたんですよね。

なので今年の夏休み、お盆でおばあちゃん家に行った時に進学とか就職とか、いわゆる進路の話になったときにも、絵を描くことを仕事にしたいんだ……みたいなことをちょっと話したんですよね。そしたら伯父さんが、……って、ああ、この伯父さんってお母さんのお兄さんなんだけど、ちょっと変わってるっていうか、大体「油絵を描くのが趣味」の水道屋って、気持ち悪くないですかぁ？全然そんなタイプじゃないんですよ？どっちかていうとガテン系の伯父さんなんですから……。本人が言うにはですね、高校のときは美術部にいて演劇部のセットを作ったこともあるって自慢するんだけど、そんなのが自慢の美術部員ってビミョーですよねえ……。

まあ、ともかく、その伯父さんがこの話に異常に食いついてきたわけなんですよ……。

以下、どことなく「男はつらいよ」の渥美清に似ている伯父さんなどとの会話はそれら

しい口調で、つまり落語のように語られる。

（伯父）「おう、えみりぃ、おめえ絵描きになりてえのか」

（古田）「うーん、絵描きっていうか、絵を描く仕事がしたいなーって思ってるんだけど……」

（伯父）「ほぉー。だけど絵を描く仕事ったって色々あるだろうよ。銭湯の壁に富士山のペンキ絵描くんだってなんだって、みーんな絵を描く仕事じゃねえか」

（古田）「え？銭湯のペンキ絵って、伯父さんねえ……。いや、たとえばね、アニメの作画を担当するスタッフとかさぁ、とにかく私は絵を描く仕事なら何でもいいかなって思ってるの」

（伯父）「おいおいおい、何でもいいはねえだろう？……。おめえ高二っていや、十七だろ？」

（古田）「うん」

（伯父）「十七っていや大人も同じ。それどころかある意味大人になりたての純粋で攻撃的な感性ってやつがあるはずだ」

（古田）「えーっ？なによそれー？？」

（伯父）「だからよ、えーい、じれってえな、おめえ。……つまりは、芸術よ！」

（古田）「ゲージュツーー？？」

（伯父）「おうよ！人間娯楽だけじゃつまんねえじゃねえか！いい若えもんがだよ？芸術めざして世界の大海原に船出しようって気概がなくてどうすんだ！……絵描きになりてえ！絵を描くために生まれてきたんだ！自分が生きるためにゃあ絵を描くしかねえんだ！って前にのめって絵描きをめざすんだよ！

（思い入れたっぷりに）芸術家ってのはなぁ……、言わばおめえ、生まれてはやがて死んでゆく人間のひとりひとりをこう、人類っていうとんでもねえ大木（タイボク）の葉っぱの一枚一枚にたとえて言やぁ、だよ？……、芸術家ってのは決して一枚の葉っぱなんかじゃねえ……、芸術家ってえのはな……、花よ！」

古田　うーーん、「芸術」ときたか～……ってね、私が伯父さんの理論の暴走ぶりに言葉をなくしていたら、そこにうちのお母さんが割り込んできたの。助け舟かって？とーんでもない、余計

に話がこんがらがっちゃって……、こんな具合……。

（母）「もーう、兄さん、よしてよ。えみりなんてまだほんの子供なんだから、変なこと吹き込まないでちょうだい」

（伯父）「変なことって、おめえなあ……」

（古田）「おかあさん、変なことはいいとしても、ほんの子供って何よ。うちがモメたときだって、えみり大人になったねえ……ってしみじみ言ってたくせに」

（母）「いいえ、子供です！大体十七なんて幼児も同じ。絵が好きだから絵を描く仕事したーい、なんて言っちゃって、ケーキが好きだからケーキ屋さんなりたーいって言ってるコドモとおんなじじゃないの！」

（古田）「あーっ！ひっどーい！」

（伯父）「おう、そりゃおめえ言い過ぎだわな。えみりだっておめえ、真剣に自分の将来を考えてだな、そんでもって絵描きになりたいって言ってんだから、こりゃ立派なもんだよ？さすが

俺の姪っこだ。なあ……」

（母）「なーにが真剣にですか。大体兄さんね、その寅さんもどきの変な江戸っ子弁みたいのなんなのよ！それに兄さん、芸術がどうのこうのってさっきから調子に乗って喋ってるけど、兄さんなんかただの水道屋じゃない！」

（伯父）「ば、馬鹿野郎！上下水道ととのった衛生的な生活をこそ『文化的』ってんだ！芸術も水道も等しく文化！……そうよ、言ってみれば文化の両輪ってえやつだ！つまりは芸術家も水道屋も人類という大樹の花よ！」

（母）「あーら、そう？下水道とかそんなのって『文明』って言うんじゃないの？」

（伯父）「ブ、ブンメイ？……だぁ？……」

（母）「そ。だから水道屋は人類の花ではありまっせ～ん！」

（伯父）「ぐっ……、お、おめえはなあ、そんな風にいっつもずけずけ言いやがって、だから旦那にもアイソ尽かされてだなぁ……」

（母）「はぁ？なーによー。何が言いたいわけ？え？何よほら、言いたいことがあるんならはっきり

言えばいいじゃないの！ほらほら、どうしたって？ん？」

（伯父）「……あ、いや、だからな、おめえ……」

（母）「へーん、だ。なーにがゲージュツよ！兄さんのすっとこどっこい……」

古田　……って結局すっかりやりこめられちゃって、伯父さんちょっとかわいそうだったな。なんせうちのお母さん強力だから……。お父さんが出て行っちゃたのもほんとだし……。って、それはまあ、別の話……。うん。

話は戻りますけど、私ね、実はそれ以来、妙に「芸術」と「娯楽」とか、「文化」と「文明」なんていう言葉にひっかかるようになってしまったんですよね。あとで調べてみると、文化と文明に関してはお母さんの意見が意外にも鋭かったんですよね。「文化」がそれこそ音楽や文学とか宗教や道徳みたいに精神的な創造物を指すことが多いのに対して、文明って、ほら、「文明の利器」ってあるじゃないですか、あんな感じで建造物とか乗り物とか道具とか、そんなことを全部含んだ「テクノロジーの進歩」っていうか、いわば主に物質的実際的な発展

の成果を指す……というような使い分けらしいんですよね。ただ言葉の概念としての境界線ははっきりしていないというか、重なっているところもたくさんあって、使い方によっては片方がもう一方を含んでいたりとかもするんですって。フクザツだなー。えーとだからつまり、たとえば私の伯父さんは水道屋さんなんだけど、その仕事は利便性とか快適性の他にも、衛生的な生活に寄与するって部分ではあきらかに「文明」って言えるでしょう？だけど同時に、伯父さんたちの仕事によって私たちが毎日シャワーを浴びられて、それが常識って言うか習慣って言うか、社会風俗になっている部分は「文化」であるとも言える・・・みたいな感じなんですかね。……なんだかなー。

まあそれでも文化と文明に関しては……そんなわけでなんとなくだけど、自分の中で片付いたんです……。だけど本題の、伯父さんの言いだした「芸術」と「娯楽」ってテーマはむずかしくって、ちょっと調べたくらいじゃぜーんぜんわからないの。しかもそれが自分の進路にかかわるとなるといい加減じゃ気持ち悪いでしょう？……うーん、文化とは……。そして、芸術とは一体何なんだろう……。

えみり台本を見るなど少し間を取る。

古田　……まあ、そんなわけでそれからも私は「芸術」と「娯楽」とかについて毎日うだうだ考えていたんですね。そしたらある日、まあーなんと、ヒントがネギしょって向こうからやってきてくれたんです。……っておかしいかな？……うん、ともかく、です、そのヒントはわが校吹奏楽部の定期演奏会でした。

ほら、演劇部と吹部ってそれぞれが自分の公演なんかのチケットを売るじゃないですか。皆さんの学校でもお互いに協力し合いません？この間うちの買ってもらったから今度はあっちの買ってあげよう、みたいな……。そんなわけで先日私は、吹部の定期演奏会に行ってきました。

うちの学校の吹部って結構有名で、部員数も１００人近いし、コンクールでも全道大会常連校なんですよね、ご存じの方も多いと思いますけど。だから定演は市民会館の大ホール使うし、

かなり盛大なんですよね。行ったことある人もいると思うんですけど、うちの吹部の定演は二部構成になっていて、コンクールの課題曲やクラシックの曲を生明りのステージで吹部のブレザー着て演奏する第一部と、ポピュラー曲を中心に衣装や照明も派手になって、しまいには軽いお芝居なんかも入れてお客さんを楽しませる第二部があるんです。

それでほら、すっごい単純だけど、さっきから言っている「芸術」が第一部で「娯楽」が第二部なんじゃないか！って思いついたんですよね。そう考えるとスッキリするっていうか、あー、こういうことかーって定演の客席ですっかり納得したつもりになっていたわけなんです。……うーん、だけど、ですね、時間がたつにつれてなんだか……、ほんとにそうなのかなーって、だんだんモヤモヤした気分になってきたんですよね……。だってね、まず第一部のクラシックの演奏だってすごく楽しいんですよ。じつは私、例の強力なお母さんがちょっとクラシック好きだった影響で、結構クラシック音楽も好きなんです。中学生のころに、なんかでチケットが手に入ったとかで、お母さんと札幌のキタラに初めてオーケストラを聴きに行ったんですよね。演奏は札響……あ、札幌交響楽団で、N響ほど有名じゃないけど、れっきとしたプロ

の楽団ですね。で、曲はベートーベンのピアノ協奏曲第４番だったんだけど、もう本当に感動して、客席で涙が出ちゃいました……。お母さんと二人で「よかったねえ・・・」なんて言い合いながらしみじみと感動を抱えて帰ってきたんですよね。だから吹部の定演の第一部でやるようなクラシック音楽も、まあ個人差はあるだろうけど、聴衆は多かれ少なかれ楽しんでると思うんです。趣味として、楽しみとしてのクラシックファンって人も、たっくさんいるわけだし。……だとすれば、クラシックを娯楽と呼んではいけないのだろうか……。それにですね、演奏してる方だって楽しいに決まってると思いません？いい演奏になった時って、きっと楽員自身も感動してるはずだと思う。だから趣味のアマチュア楽団がいっぱいあるんじゃないのかな。そういうね、楽しみでやってることって、娯楽じゃないんだろうか……って思ったわけなんです。

さらにですね、今回第二部の中でジブリの曲をメドレーにしたのを演奏したんですけど、その曲ってクラシックに負けないくらい複雑な構成でできたいい曲で、私は軽くジブリ好きなせいか、これにもかなり感動しました。あれは、……あれは芸術って呼んでいいんじゃないん

だろうか……。そしてこれは会館の方のおかげだと思うんですけど、照明もすっごくよくてですね、これはもうつまり正真正銘舞台芸術だろうと……。そんなことを考えていたら、最初に思った第一部が芸術で第二部が娯楽だなんて分け方は違うんじゃないかな……って思えてきたわけなんです。

それで、それでですね、ここからがさすが私というか、お調子ものというか、何日か後のお昼休み、私は思い切って吹部顧問のマサキ先生に突撃しました！

以下、前出の落語ふうの語りで。（付記：マサキ先生はどこか俳優の佐藤二朗に似ているのだった。映画「女子ーズ」の佐藤二朗。もちろん上演するときはあなたのイメージに合う俳優に似せなおしてもよい）

（古田）「……っていうわけで私悩んじゃってるんですよね。マサキ先生はその辺どう思います？」

（先生）「あ～～～……、娯楽と芸術かぁ……。古田おまえめんどくさいところに突っ込んだねぇ。

え？……あ、一応聞いとくけど、まじめな質問だよな？これ……。あ、まじめ……。うん、わかった。まじめね。わかりましたよー。うん。わかりました！……っと。

で、なに？うちの定演の第一部が芸術で第二部が娯楽？うーーーん、はっはっは、確かに、確かにそう考えられると単純でいいよねー、うん、うん。まあーだけど古田も気づいたように、そう簡単には問屋が卸さんわい、と……。うん。……だったらどうなのか!!……っと、ね、そういうことでしょ？つまりは。うん。

あのーー、あのーー。あれだ。あのー、先生はね、こういう場合には言葉の言い換えで切り口を変えてみる手もあると思うんだな、うん。で、今回なら芸術と娯楽って言葉をアートとエンタメって言いかえてみる……、と……。うん。……どうだ？古田、そうすっと、なーんか違う思考が広がってこない？アートとエンタメってことだったらさ……」

（古田）「はあ……アートとエンタメ……ですかぁ？……芸術と娯楽、アートとエンタメ、芸術と娯楽、アートとエンタメ、……あ～、確かに、ちょっと違う感じがするかも……」

（先生）「だろ？だろ？……うん。つまり、つまりさ、芸術と娯楽だとなんとなくイメージとして上

下関係になるじゃん？永遠のゲージュツに対して、娯楽はただのお楽しみー、みたいな感じで……。でもさー、アートとエンタメなら対等って言うかさぁ……。ほらおまえ、お笑いの人たちだってね、そりゃあもう真剣じゃないですかぁ！落語なんか立派に芸術だもんね！ほらほらほら、うちの学校、今年の芸術鑑賞会は落語だったじゃんか。な？な？

いやー、吹奏楽もさあ、確かにコンクールに出す曲をず～っと練習してる時って苦しいのよ。来る日も来る日も同じ曲の繰り返しな？……だけどさ、あぁ、多分これは演劇も同じじゃないかと思うんだけど、台本とか譜面とかに書いてあるものを表面だけなぞって音やせりふにするんじゃなくってさー、そっから先の、なんていうかなー、吹奏楽で言えば曲の解釈とかさ、表現の目的意識って言うかさ、バンドの一人一人がそのへんまで深～く考えて演奏してだ、そいつがうまくかみあった時の合奏はねー、こりゃあもう化学反応って言うかな、ほんともう、爆発なわけよ。マジ、シビれるよおまえ、たまんないの。もうトリハダたちまくりで、先生なんか指揮台の上で泣きそうになっちゃうもん。うん。この瞬間のために練習するんだ！って思うんだなー……。

だけどさ、だけどねー、古田ねー、定演の二部でやるようなポップスの演奏もね、これもまた捨てがたいわけなんだよねー。そりゃ練習に使う時間だって少ないから、音もそろい切らないよ？だけどね、だけどですよ？ドラムがこうさ、ズンドコズンドコって入ってくるわけっしょ？そいつにのってみんなでパッパパァ～ってでっかい音出してさ、おまけにお客さんが笑顔で手拍子なんかしてくれたら、これはね、これはまた計算外の化学反応的なものがあるわけで、これはこれで演ってる方もこれもまたサイコーに幸せなわけなんでございますよ……。

な？……だからさー、古田さー、アートにも娯楽っていうかさ、すっげー楽しみがあるんだけどさー、だけどエンタメにもさー、シャカリキになって突っ込んでいくとそこにしかないでっかい達成感ってかさー、そんなのがあるわけなのよ……」

（古田）「ほ～～……」

（先生）「うーん、だから古田な？おまえねー、ジャンル分けなんかに意味ないって。うん、うん。まあほら、どっちも真剣さってかさ、ある意味シャカリキになってさー、要はどれくらい

ホント～に自分が楽しめるかってことが重要なんじゃないのかなぁ……うん。ホント～に、心の底から楽しめることに間違いはないって。いってみればさ、楽しいは正義！なわけよ、アートもエンタメも。わかるか？……先生は、そう思うなぁー……うん、うん。

あ、あれ？あれ～っ？俺、今いいこと言った？言ったか？言ったよな。うん、言った言った。いや～、はは、てれるなぁ、オイ……」

古田

……って、この日はマサキ先生の変なノリでメられちゃったんだけど、まー、言ってることは分かった、かな。要するにさ、アートだろうがエンタメだろうが、カいっぱいやり切って、心の底から楽し～っ！って思えることには必ず価値があるってことだよね。マサキ先生の考えで言えばそれが文化ってことになるのかなー。

うーん、でもね、どうも私はまだスッキリしないんですよ……。芸術と娯楽って、本当に分けることができないものなんだろうか……。そもそも文化って、芸術って何なんだろう……。そして娯楽との境界線は？……って最初のところに戻っちゃうんですよね……。

うーん、たとえばね……、たとえばソフトボール。うちの学校ってソフトも仲々強いんですけど、ああやって部活でガンガン練習して泥まみれになってやるソフトボールと、クラスのレクリエーションでアイス食べたりジュース飲んだりしながらワイワイやるソフトボールって、どっちも楽しいには違いないんだけど、その楽しさってね、なんか全然別物なんじゃないかって思うんですよね。楽しさの種類って言うか、……質？って言ってもいいのかな……。レクリエーションみたいなアソビの楽しさって、なんていうかなぁ……、あ、ほら「遊びほうける」って言葉があるけど、どっか虚しさっていうか、そんなものにつながっている気がしません？でも、部活のソフトってか、スポーツならスポーツを真剣にやる楽しさって、充実感っていうかそんなのが大きくて、いわゆる虚しさみたいな感覚とは遠いって言うか……。そういう意味では「絵を描くなら芸術を目指せ」っていう伯父さんの言いぶんもなんとなく分かるような気がするし……。

でも、でもでも、それは漫画やアニメじゃダメなんですかね？たとえば仕事で漫画を描いてる人が感じる楽しさが、虚しさにつながっているとは思えないわけなんですよ。アシスタ

ントやお手伝いで参加するにしたって、プロになって、たくさんの人が待っててくれる作品を創っているときなんて、きっとすごい充実感なんじゃないかなぁ。……あ、でも、エンタメって、売れるかどうかっていう経済的な要素が入ってきますよね、絶対……。まず商品として成り立つことが最優先みたいな……。そうなると自分が楽しむってことから離れてしまうような気もするわけで……。あれっ？でもでもでも、それを言ったらアートにだって評価っていうか、ありますよね。人類の花！とかって言ったって、それは周りの人がそう認めたってことですもん。認められることが目的じゃないかもしれないけど、アートにもエンタメにも必ず受け手がいて、その人たちにどう受け取ってもらえるかってことがまた重要なファクターなわけですよね。私たちだって完全な自己満足で自分たちが楽しむだけのために、観ている人が誰一人楽しめない芝居を上演したいとは思わないですもんね。……ん？じゃあスポーツは？……あ！そっか、スポーツにだってプロがあったり、オリンピックがあったりしますよね。あれだって、見てもらうって角度から考えればその部分は一緒でしょ？自己満足だけでは完結しないって言うか……。あ、ほらほら、この演劇コンクールにだって審査員が

いて、みんな最優秀賞もらって全道大会に行きたいわけじゃないですか。でしょ？……だけど賞だけもらえりゃそれでいいってわけでは全然なくて……。あれ？でも、そもそもここで発表してる演劇ってアートでしたっけ？ん？エンタメ？ん？まさかスポーツではないだろうし……？うーん……えーーと、……うーーーん……。

あー、もう！……またわけわかんなくなってきちゃいました……。結局、文化って楽しけりゃいいんですか？どうなんです？……自己満足じゃない楽しさって何？……深いところの理解だの独創だの血のにじむ練習だのは必要条件なんですか？……おまけに受け取り手のこととか評価とか、いったい何なんでしょうか……。ねえ、皆さん？文化会館にお集まりの皆さん、皆さんはどう思います？

……私は、……私はですね……、えーと……私は……。

短い間。

古田　だ〜〜〜っ!!やめやめっ!!……ってか、もう、いいです！もう、いいっ！……私は絵を描きたいっ！絵を描きたいから描くっ！……んで、それを仕事にしたいからするっ！いーじゃないですか、それで！……演劇だってね、一人でもやりたいんだからやりますよっ！それでいーじゃないですかっ！いーじゃん、それで！ね？いーーじゃん！何か文句あるかってんだ、コノヤローっ！

短い間。（付記：老婆心ながら……次のセリフは視線を上げずに小声で）

古田　……文化なんて、何だってありなんです……。

……でも、……でもね……私……、自己満足の、ただの娯楽じゃ、やっぱり、嫌だ……。

長い間があく。カンペなしで「ガヤガヤ」が来るかもしれない……。

えみり、キッと顔を上げる。

古田　私はぁー、みんなにぃー、訊きたいことがあるぅーーー。（カンペ出さない）

ブンカってー、ゲージュツってーー、なーん・なーん・だぁーーーー！！！

最後のセリフ「なんなんだぁーー」の「だぁーー」でカーペンターズ「イエスタデイ・ワンスモア」の♪Every Shalalala……の部分がカットイン。同時に照明はえみりサスを含むラスト明かりにカットチェンジ、遅れて緞帳ダウン cue。役者はストップモーションになっている。

緞帳が下り切りカーペンターズがフェイドアウトして客電が明るくなる。終演。

（おそらく大拍手）